

令和2年度 我孫子市立白山中学校 学校経営方針

1. 学校教育目標

「みが合い、支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」

2. 建学の理念

「忍と耐」 「一人の友も置きさらじ」 「世界の空を天駆けん」

3. 学校経営方針

「自律・共生・創造」

4. 目指す生徒像

- (1) 気づき、考え、行動する生徒
- (2) 自他を大切にし、平和を愛する生徒
- (3) 心身ともに健康で、向上心を持つ生徒

5. 求める教師像

- (1) 白山中が一番好きな教師
- (2) 生徒と共に学び続ける教師
- (3) 厳しさと温かさを共に持ち、信頼される教師
- (4) 変化に柔軟に対応できる教師

プロの教師集団に！

6. 重点目標

(1) 白山ブランド『白山中魂』構築

- ① 授業改善（主体的・対話的で深い学び、UD、図書館の活用）
- ② 心の教育（道徳、いじめを認めない、思いやり）
- ③ 安全安心（体力向上、防災、食育、施設・設備の整備）
- ④ 生徒主体（行事、生徒会、部活動）
- ⑤ 三つの伝統（あいさつ、清掃、歌声）
- ⑥ 社会貢献（ボランティア活動、災害支援、SDGs）

(2) 研究&課題

- ① 研究テーマ「自ら、共に学び、活用できる生徒をめざす！」  
※県の学力向上研究指定校としての実践と発表
- ② 課題
  - 自他を認める、人間関係づくり（不登校対策）
  - インクルーシブ教育（特性の理解と多様性の尊重）
  - キャリア教育（自立への意欲・能力育成・キャリア・パスポート活用）
  - 主体性、自主性の育成（部会委員会活動の活性化、生活改善意識向上）

### 1. みんなでつくる「地域の学校」

学校は、地域に根付いている。学校は、その地域に住んでいる人たちにとって、その方、その家族の子どもがお世話になった思い出のある所であり、いざという時の避難場所、地域で助け合う場所である。そして、「〇〇中出身」というのは一生変わらず、卒業生にとって学生時代の思い出はかけがえのないものである。また、学校の桜の木や学校の校舎、子どもたちの声や先生方の姿、保護者の取組が地域を作っている。白山中の職員として、これらのことを心においておきたい。そして、地域に愛される、地域とともに歩む学校づくりを行っていききたい。

### 2. 教育の目的と建学の精神

<教育基本法 第1条（教育の目的）>

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

<白山中校歌にこめられた建学の精神>

本校は、昭和54年に創立、今年創立42周年を迎えた。校歌には、理想の学校を作りたいという思いを込めて、建学の精神がうたわれている。

「忍と耐」：正門前に石碑があり、自制心をもって仲間と協力し、粘り強く、しなやかに最後までやり遂げる力の育成を目指す。

「一人の友も置きさらじ」：仲間を大切に作る心。困っている仲間がいたときも進んで手を貸し、声をかける思いやりや温かい気持ちのある仲間づくりをする。

「世界の空を天駆けん」：自己の可能性を信じ、世のため、人のために役に立つことを進んで行い、やがては、世界にもはばたく大志と勇気を持つことを目指す。

市内で一番若い学校である本校は、創設以来の思いがより強く、伝統を重んじる学校である。脈々と続いている建学の思いを受け継いで、生徒、先生方、保護者、地域の方々にとって、「理想の学校とは何か」を問い続けて、教育活動に勤しんでいきたい。

### 3. 学校目標

「みがき合い、支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」

### 4. 学校経営方針 「自律・共生・創造」

- ・「自律」自らの「規範・ルール」を持ち、それに基づいて自制心をもって行動できる人になってほしい。
- ・「共生」日々の生活や様々な活動を通して、互いの違いを認め合いながら、相互理解を深め、新しい関係を築いてほしい。

- ・「創造」夢を持ち、それをやり抜く力をつけ、やがて社会や世界で活躍する人になってほしい。そのためには、失敗を恐れず、挑戦することを日頃から大切にし、創造力を育ててほしい。

#### 5. 「目指す生徒像」「求める教師像」

##### 「目指す生徒像」

- (1) 気づき、考え、行動する生徒
- (2) 自他を大切にし、平和を愛する生徒
- (3) 心身ともに健康で、向上心を持つ生徒

##### 「求める教師像」

- (1) 白山中が一番好きな教師
- (2) 生徒と共に学び続ける教師
- (3) 厳しさと温かさを共に持ち、信頼される教師
- (4) 変化に柔軟に対応できる教師

これから子どもたちが生きていく社会は、「少子高齢化」「高度情報化」「グローバル化」「知識基盤社会」、そして「気候変動」など大きな変化が無視できない状況にある。今回の新型コロナの世界での感染拡大によって、東京オリンピック2020が延期になるなど、1年前には予想もできなかった。変化の激しい、これからの時代を生きていくのに、指示待ち人間では路頭に迷ってしまうのではないか。「自分で気づいて、考えて、行動する」人に育て、力強く生きてほしいと思う。そのためには、まずは「自分を信じる気持ち」を持ち、周りの人たちを大切に強く温かな心を持ってほしい。また、時代は変わっても、教育の基本は「知・徳・体」である。健康な心身を持ち合わせてこそ、いろいろなことに挑戦できるのではないかと考える。以上のような趣旨で、目指す生徒像を考えた。

本校の目標は「～を育成する」ではなく、「～をめざす」と子ども主体の目標である。子どもたちは親や教師の背中を見て育つ。それは言葉ではなく、毎日見て体で感じ取っていくものでもある。私たち教師は、そういう意味で、「プロの教師集団」でありたいと思う。授業、人間性、信頼感、子どもたちをつなぐ力、先見性など、お互いに学び合い、今足りていない部分も努力して身に付けていきたいところである。本校の先生がたのすごいところは、「白山中にいるうちに、もっと良い学校にしたい」という言葉が何度も聞かれるところである。昨年度の学校評価の生徒アンケートはほぼ全部の項目で肯定的な回答が85%以上となる好結果となった。その反面、先生方のアンケートの結果は厳しいものだった。これは「勝って兜の緒を締めよ」ということわざにあるように、常にプロとして緊張感をもってあたっているということではないかと思っている。この厳しくも温かい先生方の思いを続けていきたい、そしてもっと高めていきたいという思いを込めて、「求める教師像」を考えた。

## 6. 重点目標と課題

### (1) 白山ブランド構築について

令和2年度も白山ブランド構築を継続し、学校課題も改善していきたいと考える。「白山中魂」を付け加えた。今年度も6つの重点目標に取り組んでいきたい。新規に、学校図書館の活用を加えた。これまでも「読書センター」としての機能は毎年進化してきているが、各教科の授業の学びを支える「学習センター」や生徒の情報の収集・活用能力を育成する「情報センター」としての役割を果たせるよう、重点目標に入れることにした。年間指導計画のどこで活用するか考え、蔵書資料が足りなければ、それを申し出て、計画的に使用していきたい。このような取組を通して、生徒が高校・大学で必要な本や資料を探せる力、自分でテーマをもって探求する生涯学習ということにもつながってくると考える。

さらに、学校評価で「施設・設備の整備」について、「安全点検がよく行われている」という運営委員の先生がたの肯定的回答は35.3%というかなり低い結果となった。このため、安全安心が保証される学校を目指し、施設・設備の整備はなるべく時間をおかず、できるだけ早急に対応することを優先し、予算を有効に使っていききたいと考える。また、本校はボランティア活動が盛んである。地域でもその力を発揮してほしいと考え、「災害支援」を加えた。さらに、想定外の変化があったり、他とのつながりが強くなってきている世の中で、他を無視して自分だけが幸せになるのは難しい。「持続可能な社会」を目指し、SDGsの視点をもって社会貢献に取り組ませていきたいと考える。

# 持続可能な開発目標

サステナブル Sustainable Development Goals

エスディージーズ

# SDGs

エスディージーズ

持続可能な開発目標(SDGs)は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



## (2) 研究&課題

### ①研究について

昨年度より、「学力向上の指定研究校」として2年間の研究を行っている。このため、全教科で研究テーマに沿って追求し、「論理的思考力」を育成していきたい。また、来年度より中学校にて学習指導要領の全面実施となる。年間指導計画の見直し、追加される学習内容の指導方法の研究、3観点の評価についても研究する必要がある。特に情意面の「主体的に学習に取り組む態度」については、今年全面実施となっている小学校の動向も見て、研究を進めていきたいところである。

### ②課題について

#### ○「不登校対策」

本校は令和元年度、3月に30日を超える欠席者が5.7%となった。不登校生徒が多い傾向にある。(全国・H30:3.8%)このため、県からも「不登校対策校」として指定を受けており、適応指導教室も2年前より開設して、教室に入れない生徒に学習の場所を作り、「教室に戻るための準備の場所」と位置づけしている。

また、学校評価の教職員アンケートで、「傾聴や承認を大切にし、生徒理解に努めながら長欠対策を積極的に行っている」を「そう思う」と答えた割合がH30/38%からR1/27.3%に落ちている点も気になる点である。学校全体で生徒理解に努め、生徒の居場所づくりに努め、学級を母体とする人間関係づくりに努めていきたい。また、学校内の校務分掌は以下の表のとおりである。適応指導教室は令和元年度より全授業に職員が入り、支援している。しかし、ここで大切なのは、担当の先生に任せっぱなしにならないことである。まず、生徒が休んだ時に連絡を取ることと、3日休んだ時は家庭訪問を行いたい。他の先生方の協力も得て、生徒理解に努めたい。何ごとも最初の関わりが肝心だと考える。担任としてしっかり支援の必要な生徒に関わり、保護者とも同じベクトルで子どもに関わっていきたい。また、その関わりを他の生徒にもつなげていくことも大事なことである。

#### ※校務分掌(特別支援教育・教育相談不登校対策)

分掌	担当名	仕事内容
生徒指導部	特別支援コーディネーター	1. 特別支援・不登校対策推進委員会の開催(月1回) 2. 教育研究所との連絡調整(巡回相談の校内調整・所員の要請・WISCの実施設定) 3. 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の推進と点検 4. 特別支援学級の異籍調整
	教育相談担当	1. 月1回の長欠報告(月1回の不登校生徒の状況把握) 2. スクールカウンセラー、心の教室相談員、適応指導教室、保健室との連絡調整(相談内容を担任に繋ぐ、担任から繋ぐ)
	適応指導教室担当	1. 適応指導教室の運営ルールの推進 2. 適応指導教室利用生徒のアセスメントの推進 (キメ細) 3. 朝の会、給食、帰りの会の実施と見守り

### ○「インクルーシブ教育」

本校では昨年度も今年度もスタート時は知的学級1クラス、情緒学級4クラスである。情緒学級は療育手帳を持っていない生徒が在籍し、進学先は普通高校のため、それぞれの特性にどう向き合うか、どう周りが関わるか、そして教育課程及び評価をどうするかが課題となってきた。昨年度、県総合教育センターの先生に来ていただき、特別支援教育の教育課程についての研修会を持った。その結果、本校では、

- ・5教科の授業は基本的に「特別支援学級のみ」or「交流学級のみ」の選択とする
- ・「特別支援学級（情緒）」は専科が担当することを基本とする。
- ・可能な教科は3学年3時間ずつ授業を行う。教科教員数によっては、2クラス（1年国語、2・3年国語）に分けて行う。
- ・5教科については通常級と同じ教育課程を、内容をしばって授業を行う。評価については通常級と同じ到達度テストを行い、評定の出し方を大きなくくりで合わせて評価し、基本的に評定を出す。

という方向で授業・評価を行うこととした。

### ○「キャリア教育」

学校評価の教職員アンケートで、「進路指導を計画的に、適切に行っている」という質問に対して、「そう思う」という回答が18.6%（前年度28%）とかなり低い数値になった。今年度より、「キャリア・パスポート」が小中高で実施となる。我孫子市では、小中一貫教育の中に入れて、行うことになっているが、学校の教育課程に入れて、進路指導主任をキャリア教育担当と兼任とし、学校として方向性をもって取り組んでいきたい。

### ○主体性、自主性の育成

部会委員会活動は生徒の自主性を育てる場でもあるSDGsの考え方を取り入れ、「持続可能な社会」を作り、「世の中をよくする」という視点で創造力を伴う活動を展開したい。学校全体で取り組んだ方がよいという声があがっているので、従来活動にSDGsの視点を取り入れ、生徒会活動を通じて創造的な活動に繋げたい。この機会に生徒主体で、生徒会と中央委員会主体で「現在の白山中」をよくするためにどうしたらよいかを考えてもらえたらと考えている。そして、当たり前の活動として部会委員会活動を行うのではなく、課題はないのか、どう解決できるのか、よりよい活動にしていくという視点をしっかりと持つようにさせていきたい。

このように創造力と柔軟性が求められる活動を取り入れることで、自分で考えることを日常的に行い、「世の中を変えられる」「夢をかなえられる」というわくわくした気持ちから生活改善への意欲を育てたいと考える。生徒会活動、部会活動を通じて、意欲やチャレンジ精神、考える力を育てていきたい。

(3) 連携推進 ①小中連携 ②中高連携 ③家庭連携 ④地域連携 ⑤諸機関連携

※虐待防止について:学校の教職員は、子どもの変化に気づきやすく、児童虐待を発見しやすい立場にあり、児童虐待を発見しやすい立場にあり、市町村（我孫子市：子ども相談課）や児童相談所への通告の義務（「児童虐待防止法第6条」）があります。

○早期発見・早期対応 ～発見から通告まで～

- (1) 早期発見
- (2) 直ちに管理職へ報告・相談
- (3) チームとして早期対応:管理職・虐待対応担当・養護教諭・学年主任・SC等
- (4) 関係機関への通告:児童相談所・警察・子ども相談課 →市教委へも報告

○ 「学校経営基本構想」を具現化するために、次の3つを意識したい。

- 1) 本校で実践されるすべての教育、分掌活動等に関わる具体的な方策は、この「学校経営基本構想」を受け、教育目標が具現化されるように担当者を中心にチーム対応しながら進めていきたい。
- 2) 朝礼や日報、ホームページを活用し、情報共有に努める。また、「構想」等を生徒・保護者・地域に発信し、共有していきたい。
- 3) 地域人材ボランティアを含めてできるだけ多くの人材を校内に入れていきたい。

○ ワンチームになるために、次の3つを意識したい。

- 1) チームが目指す目的（目標）を設定し、共有されていること。
- 2) 「報告・連絡・相談」を確実に。日常からコミュニケーションを大切に。
- 3) 自分の分掌や担当に責任を持つ。人からやるように言われた仕事しかやらない、自分で考えて取り組む努力を。「教育のプロになる」ことを目標に、PDCAサイクルで課題に気づき、一歩前に進む気概を持ちたい。

○ 職員室は教室の鏡である。笑顔の職員室にしていきたい。

- 1) 毎日の日報、朝の打ち合わせを活用し、情報を共有したい。
- 2) ダメな話で終始するのではなく、ダメをどうするかを話題にしたい。
- 3) 言葉づかいを大切に。「職員室内のいじめ」とられる行為はゼロです。
- 4) 業務改善（スキマ時間の使い方、仕事の優先順位、ライフバランス）
- 5) 職員室内の情報を大切にしたい。（原則生徒・業者等を職員室に入れない）
- 6) 親睦会や職員研修旅行は、参加を原則として考えていきたい。
- 7) 挨拶を積極的に行っていきたい。

○ 不祥事根絶ゼロに、全職員で取り組みたい。

- 1) 不適切な指導（体罰、暴言等）について
- 2) ワイセツ・セクハラ・パワハラ・モラハラについて
- 3) 飲酒について
- 4) 個人情報の取り扱いについて
- 5) 金銭の取り扱いについて
- 6) 調査書誤記載について